

千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第45週 (11/3-11/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		45週	44週	43週	42週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	11/3-11/9	10/27-11/2	10/20-10/26	10/13-10/19	10/27-11/2
			45週	44週	43週	42週	44週
小児科	RSウイルス感染症		4	10	6	5	93
			0.22	0.56	0.33	0.28	0.70
	咽頭結膜熱		3	0	0	0	21
			0.17	0.00	0.00	0.00	0.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		25	35	29	20	283
			1.39	1.94	1.61	1.11	2.13
	感染性胃腸炎		62	71	60	52	497
			3.44	3.94	3.33	2.89	3.74
	水痘		5	16	12	12	94
			0.28	0.89	0.67	0.67	0.71
	手足口病		18	13	21	19	140
			1.00	0.72	1.17	1.06	1.05
小児科	伝染性紅斑		0	5	4	3	50
			0.00	0.28	0.22	0.17	0.38
	突発性発しん	○	16	9	16	6	69
			0.89	0.50	0.89	0.33	0.52
	百日咳		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	ヘルパンギーナ		3	1	1	4	15
			0.17	0.06	0.06	0.22	0.11
	流行性耳下腺炎		6	3	5	5	47
			0.33	0.17	0.28	0.28	0.35
	インフル		16	16	8	1	64
	インフル		0.57	0.57	0.29	0.04	0.30
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
眼科	流行性角結膜炎		1	0	0	0	13
			0.20	0.00	0.00	0.00	0.39
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	1	0	0
			0.00	0.00	1.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	1	1
基幹定点			0.00	0.00	0.00	1.00	0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	1	0
			0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	病原体等の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱、中枢神経症状
結核	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	40歳代	腸内細菌科細菌の検出、薬剤耐性の確認、起病菌の判定
細菌性赤痢	男性	60歳代	病原体の検出				
細菌性赤痢	女性	60歳代	病原体の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	40歳代	病原体の検出
レジオネラ症	女性	70歳代	病原体抗原の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	70歳代	病原体の検出等
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱、中枢神経症状	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	70歳代	病原体の検出

・結核2件(224)、細菌性赤痢2件(4)、レジオネラ症1件(3)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(1)、急性脳炎2件(17)、侵襲性肺炎球菌感染症3件(9)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

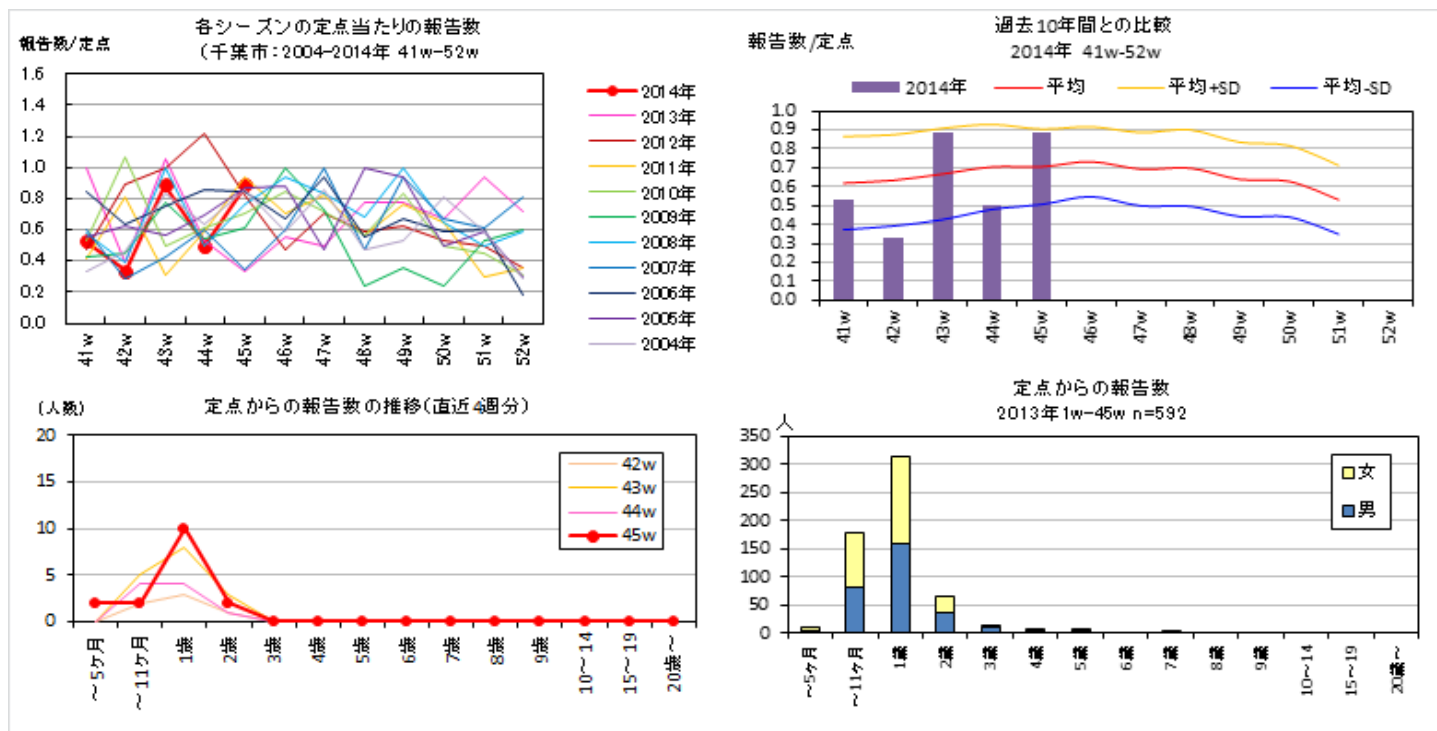
定点当たり報告数 第45週のコメント

＜突発性発しん＞前週より増加し0.89となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜突発性発しん＞

2014年の全国レベルの第44週現在は過去7年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、熊本県及び大分県、佐賀県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第45週現在は前週より増加し0.89となり過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、稲毛区(3.0/定点)で最多で同区の1歳で最も多く報告されています。2014年第45週現在の累積報告数(n=592)によると、性別では男性が50.2%(297名)、女性が49.8%(295名)とほぼ同数で、年齢階級別では1歳(53.0%:314名)、6か月～11か月(30.4%:180名)、2歳(11.0%:65名)の順に多くなっています。



＜急性脳炎＞

2014年の全国レベルの第44週現在の累積報告数は382件で、過去7年間の同時期と比べると最多となっています。関東地域での発生報告が多く、都道府県別では千葉県及び東京都が最多で、次いで神奈川県で多く報告されています。千葉市では第45週に2件の報告があり、2014年の累積報告数は17件となり、過去10年の届出数と比べると2番目に多くなっています。17件の内訳は、性別では男性10名(51%)、女性7名(49%)で、年齢階級別では、10歳未満が13名(76%)と最も多く、他は20歳代、30歳代、50歳代、60歳代でそれぞれ1名ずつ(各6%)となっており、原因物質はインフルエンザウイルス3件(18%)、ヒトヘルペスウイルス2件(12%)、ロタウイルス1件(6%)、不明11件(65%)となっています。

